

DATA FILE



六方晶系

名前	HELIOTROPE (ヘリオトロープ) / 血石
化学組成	SiO ₂
色	赤色の斑点が入った暗緑色
光沢	ガラス光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	なし
断口	貝殻状
硬度	7
比重	2.6

けっ

せき

血石

HELIOTROPE

玉髓のなかまで、暗緑色に赤色の斑点が散らばっているものを「血石」という。

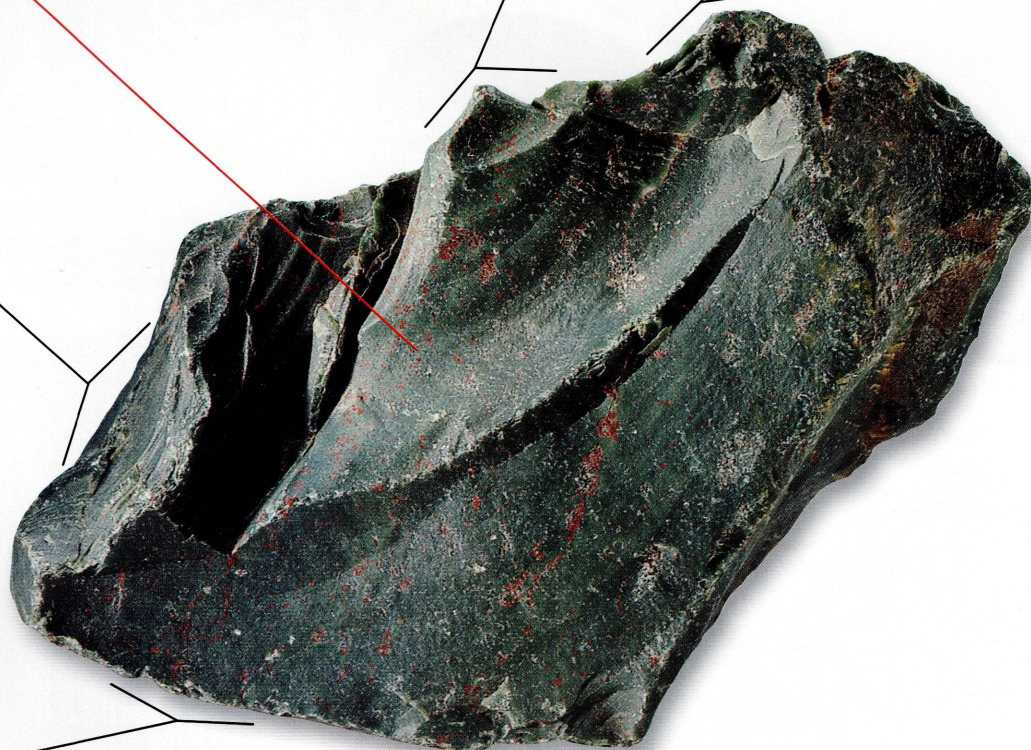
ガラスのような光沢を持つ。

インドで産出した塊状の血石。

ハンマーでたたくと貝殻状の断口を示す。

含鉄鉱物を含む火山岩中の空洞や割れ目に熱水によってシリカが沈殿してできるほか、海底火山から噴出したシリカが酸化鉄とともに沈殿してできることもある。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

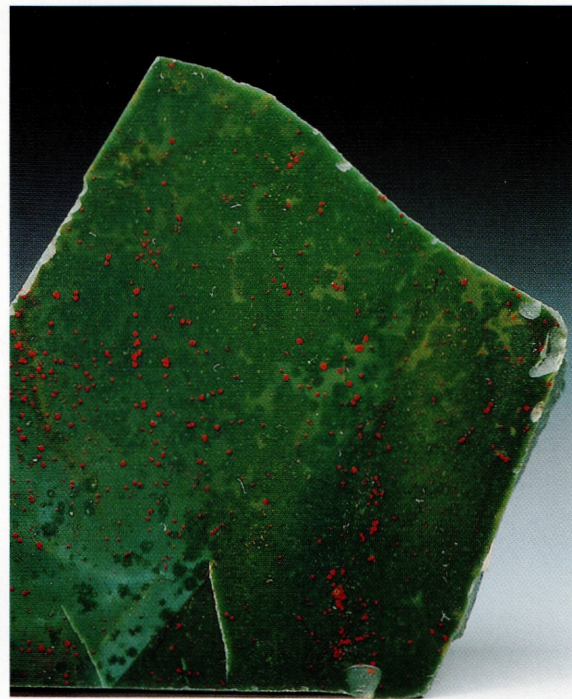


▶板状に研磨された血石。
ブラジル産。

暗緑色に赤色斑点の玉髄

ケ 血 石

玉髄の一種である血石は、表面に散らばる赤色の斑点が血のように見えることから命名され、「ブラッドストーン」とも呼ばれている。基本となる暗緑色の部分は緑泥石やセラドン石など緑色系鉱物の微小な包有物による色合いで、赤色の斑点は酸化鉄によるもの。なお、英名の「ヘリオトロープ」は、かつて赤色の斑点は太陽の影響によるものだと考えられていたことからギリシャ語で「太陽のほうを向く」という言葉を語源としている。



▼血石を磨いてつくられた
装飾品。

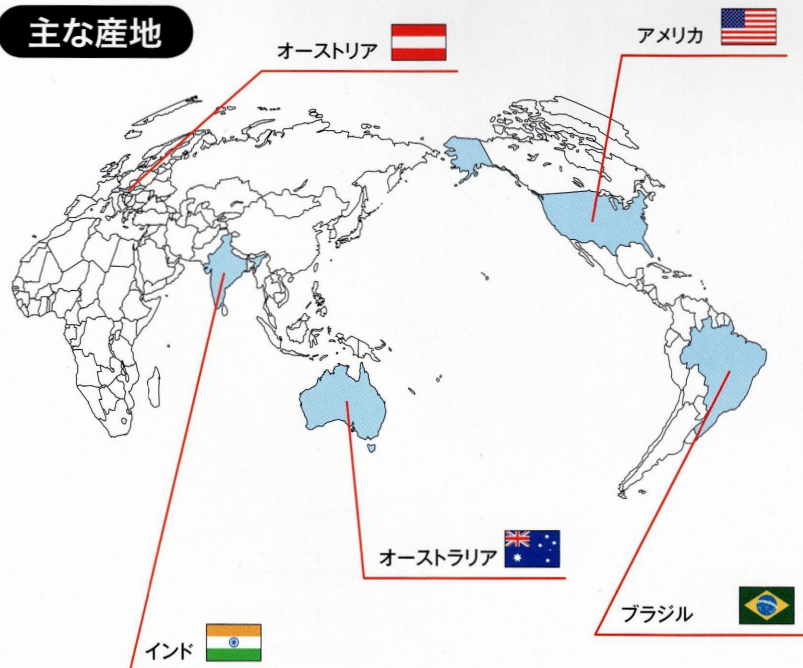


▲カボション・カットが施された血石。

血石にまつわる話

血石は古くから知られ、古代エジプトでは粉末にした血石を止血剤にしていたため、兵士たちのお守りに用いられた。また、血石を持つと、その人の姿を見えなくする力があるとも考えられていた。中世の時代には、キリストが十字架にかけられた時、足下にあった石にキリストの血が偶然かかって血石ができたと言われていたため、血石の大きな塊は、彫刻家らによってキリストの受難の場面を彫る際などに利用された。

主な産地



▶インドで産出した血石。